

新型コロナウイルスの感染拡大は、業界ごとの明暗をはっきりと分けた。就活生にとっては、例年にも増して情報収集が重要となっている。今回は、就活サイトだけではわからない将来性と安定性が高い道内企業をピックアップした。親世代も必見だ。

コロナ禍で変わった 学生の企業志向

厚生労働省と文部科学省が3月に発表した2021年卒の大学生の就職内定率は89・5%で、前年同時期を2・8ポイント下回った。これは11年以来10年ぶりの低率となった。

近年は大手企業や有名企業への志向が強まっていたが、それ

を後押ししていたのが「売り手市場」という状況だった。しかし、大手企業や有名企業ほど、コロナ後の市場変化に身構え、採用数を絞る傾向にある。実際に大手航空会社では21年卒の新卒採用を中止。今後もすぐには売り手市場に戻る可能性は低いと予測される。また、コロナ禍の行動変容で

10社

コロナ禍で明暗くっきり 将来性と安定性で 選ぶ就職先 道内企業

業界ごとに業績の二極化が鮮明となった。業績アップやコロナの影響が少なかったITや物流業界などには、アフターコロナを見据えて転職希望者も多くなっている。

こうした状況を受けて、今後は学生の志望先も変化していくことが予測される。実際に大都市圏から地方都市への就職志向が高まっているほか、収束の兆しが見えない不安から学生はこれまで以上に「将来性」と「安定性」を就職先に求めているのが実情だ。

また、近年の就職活動においては、親が介入するケースも珍しくない。子にアドバイスする上で、昨今の状況から正しい情報の取捨選択ができていないケースも見受けられる。

これまでと同様に地場企業・中小企業を単なる滑り止めとしか考えず、有名企業以外の就職を認めないといった考え方だと子のためにならないことは確か。コロナ禍でも安定した経営や斬新なビジネスを展開する地場企

業が数多く存在していることを伝えたい。

採用を強化・継続 する企業が狙い目

では、将来性と安定性が高い企業を見極めるポイントは何か。1つは経済が停滞している現状で、採用を強化している企業は体力があると推測できる。未来を見据えて勝負に出ようというアグレッシブな企業だからこそ、将来的な成長も期待できる。

また、コロナ禍で業績を落とす業界でも採用を継続・強化している企業は狙い目だ。こうした企業はピンチを耐えしのぐだけでなく、逆にチャンスと捉えていることが予想される。将来的に競争相手が撤退し、残存者利益の獲得も期待できるだろう。そこで今回は独自調査のもと、将来性と安定性が高い就職先10社をピックアップした。事業内容、好調な業績、福利厚生や社員の教育体制などにフォーカスして紹介する。

